

テーマ別分科会の振り返り

背景写真：札幌シーニックバイウェイ
藻岩山麓・定山溪ルート「秀逸な道」(無意根大橋)

各分科会ではルートからの話題提供の後、意見交換が行われ、それらをもとに「共に〇〇〇」というキーワードにまとめる流れで進められました。振り返りでは、各分科会のファシリテーターや話題提供を行ったルート代表者、アドバイザー会議委員の方々が分科会の成果を報告し、参加者全体で共有しました。

★ファシリテーター 芝崎 拓(dec)

小野さんの「秀逸な道カード・QRコード等を活用した地域情報発信」、松浦さんの「国道243号における白樺並木の景観整備事業」の話題提供をもとに議論しました。お二人の話から、活動継続のモチベーション維持は若い世代とつながることによる新しい視点の獲得や楽しさの共有がポイントであること、また「映画のワンシーンのような風景をつくる」ことが意欲の源泉になってきたことがわかりました。近畿地方整備局の方に北海道の景観に関する感想を聞いたり、景観について学んでいる札幌市立大学の学生さんにも意見を聞き、岩井委員からは景観づくりにマーケティングの視点も入れながら価値化していくことが今後は大事になるとのアドバイスをいただきました。



それぞれの分科会の内容を共有し、今後の方向性をボードにして発表しました

★松浦 和浩氏 (東オホーツクシーニックバイウェイ副代表)

話題提供で最も伝えなかったのは高校生との連携です。一昨年からのフォトコンテストや今年の白樺の撮影は高校生の協力が大きい。彼らの「楽しかった」というシンプルな言葉を大事にしたいと思います。

★岩井 宏文氏 (アドバイザー会議委員/㈱GB産業化設計代表取締役)

活動を持続させるためのポイントや課題について意見交換するなかで、景観について捉え直しをする時期に来ているのではないかと感じました。景観を「道路を基盤とした舞台」と捉えると、そこには配役があり資金調達や松浦さんたちのような監督が必要になります。地域のな

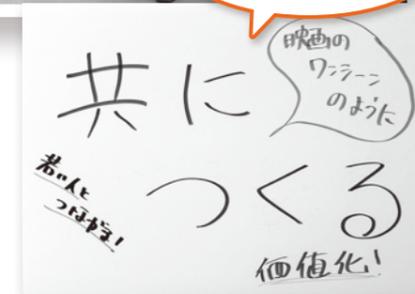
★小野 幸子氏 (支笏洞爺二セコルート代表)

続けていくためにはまず自分自身が楽しむこと、横の連絡をとりながら話し合いをしていくことが一番大事。小学生にろうそくのつくり方を教えたり、高校生と花植えをしたり、大学生と共に景観診断をしてきましたが、今後も若い世代とのつながりを大切にしていきたい。

テーマ1

シーニックバイウェイ 景観づくり

地域を美しく映し出す景観を、どのように守り、維持・活用するのかについて共有



全道ルート交流会議

2023年3月に20周年を迎える「シーニックバイウェイ北海道」。現在の指定ルートは15、候補ルートは2で、全道で約500団体とその関係者が活動を展開しています。その連携と交流を深めようと開催されているのが「全道ルート交流会議」。今年は道内外の約140名が札幌に集い、3つの分科会などで活動推進のための議論を活発に交わりました。「2024年10月7日/札幌第一合同庁舎、TKP札幌駅前カンファレンスセンター/主催：シーニックバイウェイ北海道推進協議会」

開会挨拶



シーニックバイウェイ北海道推進協議会副会長・北海道開発局長 坂場 武彦氏

シーニックバイウェイ北海道の活動に取り組んでおられる皆様にあらためて敬意を表します。第9期北海道総合開発計画では、官民の垣根を越えて多様な主体が地域の課題解決に向けて連携、協働する「共創」の取り組みを推進しています。今回の会議では各ルート活動団体をはじめアドバイザー会議委員、包括連携協定を結ぶ企業・団体、また道内の大学生や近畿と中国の地方整備局の皆様にも参加いただき、活動の裾野を広げるかたちでの開催となりました。皆様にとって有意義な機会になることを祈念しています。

話題提供



シーニックバイウェイ北海道の最近の活動状況

本局建設部 道路計画課課長 村上 陸氏

プログラム

- ★01:開会
- ★02:話題提供 シーニックバイウェイ北海道の最近の活動状況
- ★03:テーマ別分科会
 - ①シーニックバイウェイ×景観づくり
 - ②シーニックバイウェイ×地域づくり
 - ③シーニックバイウェイ×観光空間づくり
- ★04:振り返り
- ★05:包括連携企業等とのマッチング/フリータイム
- ★06:閉会



テーマ2

地域づくり シーニックバイウェイ

地域づくりのあり方等を共有 活カある地域の継続・発展を目的として、

★ファシリテーター 小西 信義 (dec) 西さんの話題提供「流雪溝活性化プロジェクト」では、人口減少下で地域づくりするためには企業を含め多様な立場との連携が不可欠だが、その進め方が難しい、との問題提起がありました。また、北海道コカ・コーラの砂山さんの話題提供では、企業として社会的使命を全うしたいが地域ニーズをくみ取るとは簡単ではない、という社会貢献活動のジレンマが示されました。

そこで対話を深めていくことの重要性を軸に議論を進めました。北海道コカ・コーラさんは道内に営業所など地域拠点が多数あり、そこには、前例もあるように地域との連携に長けた方が少なからずおられるとのこと。今後はそういう方々との連携を積極的に図ったら

どうか、と山岸委員からアドバイスがありました。属人的な面もあるけれど、それによって対話が生まれ、次の連携が生まれるということで、そのベースとして「共に夢を見る」ことが大切、との山岸委員の指摘でキーワードをまとめました。

★西 大志氏 (萌える天北オロロンルート代表) われわれのルートは小さな自治体が多く、地域の人々はまちづくりの多様な役割を掛け持ちして疲れているのが実情です。そこを北海道コカ・コーラさんが清掃活動などで支援くださって来ました。今後は地域の側が同社に対して何が出来るかを考える必要があると思っています。活動を通じて地域、企業が共に良くなっていくように取り組んでいきたい。

★砂山 達郎氏 (北海道コカ・コーラボトリング(株) カスタマーマーケティング)



「コカ・コーラ」は世界的ブランドですが、弊社は今年61年目の道産子企業です。「北の大地とともに」というスローガンで2003年ごろから営業拠点や物流網を活用して地域貢献活動を行ってきました。ある一人の社員の取り組みが地域での活動展開を広げるきっかけとなりましたが、今後さらに社員団結して地域を盛り上げていきたいと思っています。

★山岸 奈津子氏 (アドバイザー会議委員/(一社)SHIRAOI PROJECTS代表理事)

広域連携にしても次世代への継承にしても「共に夢を見る」ことが大事ではないかと思いました。「地域は企業に対して半歩リードし、こうなったらいいという希望を企業に投げかけるスタンスだとうまくいくのではないかと分科会後、西さんと話し合いました。

テーマ3

観光空間づくり シーニックバイウェイ

魅力ある観光空間づくりを 目的として、シーニックらしい 観光のあり方について共有

★ファシリテーター 佐藤 真人 (dec) 「エコ・モビリティ」の活動を中心に栗原さんと田中さんから報告いただきました。田中さんの知床ねむろ北太平洋の取り組みはまだこれからというところがあるようですが、天塩川の取り組みは長く、事業化も進んで根付いてきている様子です。旅のスタイルやモビリティの多様化について議論を進め、フロアの各ルート関係者からも現状を聞きました。

木村委員から、各地域で自然の楽しみ方についてさまざまな取り組みが行われているものの「観光空間づくり」としてはまだ掘り下げる余地ありとの指摘がありました。まとめのキーワードとしてファシリテーターから「冒険」を提案しましたが、木村委員からルートの域内、あるいはルート間で連携できる場所を探しながら進むという意味で、空間の広がりを感じられる「探険」という言葉の提



案があり、まとめとしました。

★田中 恭平氏 (知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ) 今回の交流会議は若手としてさまざまな情報に触れて勉強になり、あらためて地域のことを自分ではわかっていないと実感しました。この思いを今後の地元の活動に生かしていきたいと思っています。

★栗原 智博氏 (天塩川シーニックバイウェイ代表) 旭川・稚内間のサイクルイベント「てっぺん・ライド」に長年取り組んできましたが、この地域にはまだまだ新しい発見があり、「共に探険する」にふさわしい発展途上の地域だと思います。現在、年間を通じた観光づくりに取り組もうと上川地域のスキー場の共通シーズン券の発行を計画しており、合宿やスポーツ大会の誘致についても近隣市町村で連携し、交流人口の増加に取り組んでいます。

共に探険 する

★木村 宏氏 (アドバイザー会議委員/北海道大学観光学高等研究センター教授) 自分たちのルートだけでなく隣のルートとつながることで新しい観光空間づくりができるのではないかと話し合いました。ルートが互いによく知り合ってこそ、それぞれの魅力を打ち出した情報発信ができるのであり、そういう意味で周辺の地域を探険することが大事で、それをキーワードとしました。観光地域づくりは一つのブランドをつくっていくことであり、シーニックバイウェイのブランド力を見直し、今後もっと探険することが必要だと思います。 文責:dec

企業とのマッチング



全道のルート関係者と包括連携協定企業等との交流促進を図ろうと、ポスターセッション方式による交流タイムが設けられました。今回参加の包括連携協定企業等は9団体。全体会議で団体の代表者が各1分程度、支援方策についてスピーチした後、各団体のポスター前に分かれてルート関係者と自由歓談し、交流を深めました。

【参加団体】(一社)北海道商工会議所連合会、林野庁北海道森林管理局、東日本高速道路(株)北海道支社、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、北海道地区「道の駅」連絡会、クリプトン・フューチャー・メディア(株)、特定非営利活動法人北海道遺産協議会、北海道エネルギー(株)、(株)ACT NOW